

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	KC棟建築工事	階数	地上5F		
建設地	熊本県菊池市旭志川辺字四西沖13	構造	S造		
用途地域	都市計画区域内 区域区分非設定	平均居住人員	130 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年		
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2021年9月 予定	評価の実施日	2021年2月3日		
敷地面積	1,797 m ²	作成者	寺川幸子		
建築面積	744 m ²	確認日	2021年2月3日		
延床面積	3,098 m ²	確認者	定森淳一		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.1

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

排出率

79%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

75.7

48.7

60.0

93.0

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	KC棟建築工事	階数	地上5F
建設地	熊本県菊池市旭志川辺字四西沖13	構造	S造
用途地域	都市計画区域内 区域区分非設定	平均居住人員	130 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年9月 予定	評価の実施日	2021年2月3日
敷地面積	1,797 m ²	作成者	寺川幸子
建築面積	744 m ²	確認日	2021年2月3日
延床面積	3,098 m ²	確認者	定森淳一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★☆☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 71

重点事項1: 温室効果ガス排出削減の推進 評価点 = 75.7	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 48.7
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 60.0	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 93.0

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・空間の全体計画や耐用性の高い材の採用によりサービス性能に配慮している
- ・リサイクル材の使用や部材再利用可能性向上に取り組み、省資源化に努めている

Q1 室内環境

- ・床と天井に吸音性のある素材を使用し、音環境に配慮している

Q2 サービス性能

- ・天井高さを高く設定し、休息室の計画により快適性に努めている
- ・外壁仕上や給排水配管、ダクトに長寿命材を採用
- ・階高や空間の形状にゆとりをもたせ、将来の用途変更可能性に配慮している

Q3 室外環境（敷地内）

- ・既存建物にバランスよく調和するよう計画
- ・仮想敷地内に緑化計画はない

LR1 エネルギー

- ・LED照明設備等の高効率設備の採用により、省エネルギー性に努めている

LR2 資源・マテリアル

- ・節水型水栓を採用し、節水に努めている
- ・グリーン購入法における特定調達品目やエコマーク製品を採用し、非再生性資源の利用削減に努めている
- ・解体時の分別が容易な工法や再利用可能な部材を採用し、部材の再利用可能性向上に取り組んでいる

LR3 敷地外環境

- ・燃焼機器の使用がなく、大気汚染物質を全く発生しない

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 KC棟建築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		71
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				75.7	0.40	30.28
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.1	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				48.7	0.20	9.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				93	0.20	18.60
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	4.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

CASBEE-建築(新築)2016年版
KC棟建築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質							2.7
Q1 室内環境			0.36		-		2.7
1 音環境		3.2	0.15				3.2
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40				
1.2 遮音		3.0	0.40				
1 開口部遮音性能		3.0	0.60				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-				
1.3 吸音	床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板	4.0	0.20				
2 温熱環境		2.0	0.35				2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50				
1 室温		3.0	0.38				
2 外皮性能		3.0	0.25				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38				
2.2 湿度制御		1.0	0.20				
2.3 空調方式		1.0	0.30				
3 光・視環境		3.0	0.25				3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.30				
1 昼光率		3.0	0.60				
2 方位別開口		3.0	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40				
3.2 グレア対策		3.0	0.30				
1 昼光制御		3.0	1.00				
3.3 照度		3.0	0.15				
3.4 照明制御		3.0	0.25				
4 空気質環境		3.4	0.25				3.4
4.1 発生源対策		3.0	0.50				
1 化学汚染物質		3.0	1.00				
4.2 換気		3.0	0.30				
1 換気量		3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33				
4.3 運用管理		5.0	0.20				
1 CO ₂ の監視		-	-				
2 喫煙の制御	施設内全面禁煙	5.0	1.00				
Q2 サービス性能			0.30				3.1
1 機能性		2.7	0.40				2.7
1.1 機能性・使いやすさ		2.0	0.40				
1 広さ・収納性		1.0	0.33				
2 高度情報通信設備対応	OA機器用コンセント容量が40VA/m ² 以上、Gigabit通信回線の引き込み	4.0	0.33				
3 バリアフリー計画		1.0	0.33				
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30				
1 広さ感・景観	天井高さ2.90m以上	5.0	0.33				
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上の休憩室	4.0	0.33				
3 内装計画		1.0	0.33				
1.3 維持管理		3.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30				3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.2	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能	スプリング防振架台、防振吊金具の設置	4.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数		4.0	0.30				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	金属サンドイッチパネル30年以上	5.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	一般:亜鉛鉄板、クリーンルーム:ステンレス、屋外露出:ガルバリウム鋼板	5.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要用途上位3種の2種類以上にB以上を使用、Eは不使用	5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20				
2.4 信頼性		3.0	0.20				
1 空調・換気設備		3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20				
3 電気設備		3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20				
5 通信・情報設備		3.0	0.20				

3 対応性・更新性			3.4	0.30		-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30		-	
1	階高のゆとり	事務所・工場用途:階高3.9m以上	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≦壁長さ比<0.3	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.34		-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.11		-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.11		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.69	4.1	0.55		-	4.1
4 効率的運用			3.5	0.22		-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00		-	
4.1	モニタリング	中央監視設備によりモニタリング可能	4.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		省水型便器、自動水栓、泡沫水栓、節水コマの使用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60		-	3.7
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		磁器質タイル/エンタンス床、ビニル床/共用部床等、砕石/地業	5.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		解体時の分別が容易な工法及びOAフロアの採用	5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当しなし建材種別を採用	4.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3	4.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率79%	3.8	0.33		-	3.8
2 地域環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の使用がなく、大気汚染物質を全く発生しない	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	駐輪・駐車場・管理用車両用スペースの確保	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		3.0	-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの一部を満たす、広告物照明の設置はない	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	